

ChatGPT による「直江状」の作成 ー生成 AI 活用方法のひとつの提案ー

高木 和人

E-mail: j8takagi@nifty.com

あらまし ChatGPT などの生成 AI 活用方法のひとつとして「詫び状の作成」についてとりあげ、その一例として「直江状の作成」について説明する。詫び状の作成は、感情のコントロールや表現など、人間にとっては作業しにくい面があり、また状況に応じた柔軟な対処が必要な点で従来の意味での自動化がむづかしい面があった。こうした詫び状の作成について日本の歴史上有名な「直江状」を題材に研究し、さらにはより有意義な生成 AI の活用について考察していく。

キーワード 生成 AI ChatGPT 日本史 詫び状 直江兼続

Creation of Apology Letter from Kanetsugu Naoe by ChatGPT

A Case Study on the Application of Generative AI

Kazuhito Takagi[†]

E-mail: j8takagi@nifty.com

Abstract This proposal discusses the creation of apology letters as one of the applications of generative AI, such as ChatGPT. Specifically, it explores the generation of Letter from Kanetsugu Naoe as an example. Crafting apology letters involves challenges for humans, including emotion control and expression, and the need for flexible responses depending on the situation, making traditional automation difficult. The study delves into the historical Letter from Kanetsugu Naoe famous in Japan as a basis for researching the creation of apology letters, and further reflects on the meaningful utilization of generative AI.

Keyword generative AI, ChatGPT, Japanese History, Apology Letter, Kanetsugu Naoe

1. はじめに

2022 年に ChatGPT が登場してから、ChatGPT をはじめとする生成 AI の活用方法が世界中で模索されている。そうした活用方法の中で「詫び状の作成」について日本の歴史上有名な「直江状」を題材に研究し、さらにはより有意義な生成 AI の活用について考察していく。

2. 詫び状作成のむづかしさ

誤りを謝罪したり弁明したりする場合に必要な詫び状の作成は、人間にとってむづかしい面がある。自らの誤りを表現するときには、冷静さを保つ感情の制御が必要となるし、事実や責任範囲を客観的に判断することもむづかしくなる。また、事実や責任範囲を適切に説明することや、過度の感情や不適切な表現が用いられないように注意するむづかしさもある。表現には、詫び状を出す相手も感情的になっていることが多いため、特に気を遣う必要がある。

その他にも、相手の立場の理解、文化や習慣の違いへの配慮などといった、通常の手紙や文書に必要な

要素が詫び状の作成にあたってはより明確に必要なとなるだろう。

一方で、詫び状の作成にあたっては状況に応じた個別的な対応が必要になり、また相手の感情にも配慮が必要なため、文書の定型化やテンプレートの利用は通常の文書よりもむづかしい面があった。

ChatGPT などの生成 AI が登場すると、状況に応じた個別的な詫び状の作成が期待できるようになった。また、詫び状作成を他のものにやってもらうことで、事実や責任範囲、表現の判断を冷静にできるようになることも期待できる。

ただし、詫び状の内容は個人や組織のプライベートに関連するものごとの恥ずべき失敗にかかわることが多いため、詫び状についての研究やノウハウは公開しにくい面がある。そこで歴史上有名な詫び状である「直江状」を題材に、ChatGPT による詫び状作成を試みることにした。

3. 直江状の概要

直江状は、慶長 5 (1600) 年に、上杉景勝の重臣である直江兼続が、徳川家康の意向の元で上杉家と交

渉していた僧の西笑承兌に宛てた書簡である。景勝に関する穩便でないわさが流れていて家康も不審に思っているため上洛して弁明するようにと促す西笑承兌の書状に対し、上洛を断る意向を示す返信となっている。この直江状の内容は、徳川家康への挑戦状であるとされてきた。こうした書状のやり取りのあと、徳川家康は上杉景勝と戦うための会津征伐を開始し、この会津征伐が石田三成挙兵と関ヶ原の戦いへと続くこととなった。そのため直江状は、関ヶ原の戦いの重要なきっかけであるとみなされている。この直江状の作成を ChatGPT を用いて試みることにした。

4. ChatGPT による直江状の作成

4.1. シンプルなプロンプトでの作成

ChatGPT で直江状を作成するため、プロンプト（生成 AI などユーザーが入力する質問）に次の文を指定した。

〈現在は慶長 5 年（1600 年）、私は直江兼続というものです。このたび徳川家康から、私どもの主人である上杉景勝に対して「謀反の疑いがあるので上洛して弁明するように」との手紙が届きました。上洛をお断りする手紙を家康さまに出したいので、作成してください。〉

それに対する ChatGPT の回答は次であった。

〈御届けになりました徳川家康様へ、

拝啓、時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。私、直江兼続は上杉景勝殿の忠実な家臣であり、主君の命により節度ある勤務に励んでおります。

さて、貴殿より御達しがありました上杉景勝殿に対する「謀反の疑いがあるので上洛して弁明するように」とのお手紙を拝領いたしました。先ず初めに申し上げますと、当主君である景勝殿が如何なる謀反の企てをなさることは到底考えられません。

私たちの主君である景勝殿は、篤実なる徳を重んじ、忠義の心で国の安寧に努める者であります。戦国の世にあっても、その政治手腕と仁徳により地域の発展に寄与してまいりましたこと、家康様もよくご存知のことと存じます。

誠に申し訳ありませんが、私兼続は主君の命に背くことなど到底ございません。主君景勝殿の無実を信じ、家康様のお許しを得つつも、上洛することはできませ

ん。我々はこれまでも、家康様と共に数多くの戦に参陣し、武勇と忠節を示して参りました。それらの事績がお忘れにならないことと確信しております。〉

この回答は、プロンプトでも与えられた次の要件について十分に考えられた解答と評価できる。

- 「上洛をお断りする」という趣旨
- 直江兼続、上杉景勝、徳川家康の人間関係
- 慶長 5 年（1600 年）という時代背景を考慮した言葉遣いや表現

4.2. ChatGPT がもつ前提知識

こうした回答の作成にあたり、ChatGPT はどのような前提知識をもっていたのだろうか。一般に、詫び状を作成するにはまずは問題の所在を中心とした状況の把握が必要である。そして、ChatGPT などの生成 AI ではプロンプトでそうした状況についてしっかり伝えることが、適切な詫び状の作成のために必要となるだろう。しかし、詫び状作成のために必要な情報をすべて生成 AI に伝えることは困難である。そのため、ChatGPT がもつ前提知識が重要になる。そこで、ChatGPT のプロンプトに次の文を指定した。

〈慶長 5 年に直江兼続が作成したとされる「直江状」の内容と、この書状が作成された背景を説明してください。〉

それに対する ChatGPT の回答は次であった。

〈「直江状」は、戦国時代の武将である直江兼続が、慶長 5 年（1600 年）に関ヶ原の戦いの前に、豊臣秀吉に対して書いた書状とされています。この書状は、兼続が豊臣秀吉に対して忠誠を誓い、支援を約束する内容となっています。〉

直江兼続は、豊臣秀吉に仕えていたが、関ヶ原の戦いにおいては東軍（徳川家康方）に味方していました。慶長 5 年には、豊臣秀吉が病死し、後継者を巡る争いが激化していました。豊臣家の家督を巡る争いの中で、兼続は徳川家康に仕え、東軍に加わることとなりました。

「直江状」は、このような状況下で、兼続が豊臣秀吉に対して謝罪と忠誠を表明するために書かれたものであり、彼の戦国時代から安土桃山時代の武将としての複雑な立場を反映しています。兼続は、自身の主君である豊臣秀吉に忠誠を誓っていたが、戦国時代の情勢

や家康との関係から、彼とその所領を守るために東軍に味方する道を選びました。

「直江状」は、その武将の忠誠心や苦悩、そして当時の政治情勢を垣間見ることができる歴史的な文書として、研究や文化の面で重要視されています。)

この回答は、「(直江状は) 豊臣秀吉に対して書いた書状」「兼統は徳川家康に仕え、東軍に加わることとなりました」など明らかに事実と反する内容である。それにもかかわらず与えられた要件を十分に満たす詫び状を作成できる ChatGPT は、正しい事実認識の基づいた文章の作成という人間の作業プロセスとは異なる作業プロセスになると推測できる。

4.3. プロンプトに元の書状を示した場合

「直江状」は、[1]に比較的最近(2011年)までの研究と論点についてまとめられている。この論文によれば、直江状は偽文書か否かという点に加え、「家康への挑戦状」か否かという点についても議論が起きている。また、直江状が西笑承兌書状への返信であることや、直江状の原本は伝わっておらず後世の写しのみが見つわっていることなどが説明されている。こうした説明をもとに、プロンプトとして西笑承兌書状の内容を示し、直江状を作成した。

〈現在は慶長5年(1600年)、私は直江兼統というものです。このたび西笑承兌さまから、下記の手紙をいただきました。私から西笑承兌さまに返信を出したいので、作成してください。〉

西笑承兌さまからの手紙は次の内容です。

景勝卿の上洛が遅れていることについて内府様(徳川家康)は御不審をもっています。上方では穏便でない噂が流れていますので、伊奈図書(昭綱)と河村長門を下らせました。神指原に新城を作ったり、越後河口に橋を造ったりするのは特によくありません。景勝卿がそう思っている兼統殿が意見しないのは油断であり、内府様の御不審ももっともです。

一、景勝卿に謀叛の心がなければ神社の起請文で申し開きすることが家康公のご内意です。

一、景勝卿が律儀であることは太閤様(豊臣秀吉)以来家康公もご存じです。釈明が認められれば問題はないと思います。

一、近国の堀監物(秀治)が再三謀叛の報告をされているので、しっかりした謝罪がなければ釈明は認められないと思います。ご注意ください。

一、この春、北国の肥前(肥前守=前田利長)殿も謀叛を疑われましたが、家康公の道理が通った思召し召しで、疑いが晴れました。これを教訓としてご覚悟ください。

一、京都では増右(増田右衛門少尉=長盛)・大刑少(大谷刑部少輔=吉継)が家康公への話をされているので、釈明は兩人へ伝えてください。榊式太(榊原式部大輔=康政)にも伝えられると良いと思います。

一、なんといたっても景勝卿の上洛が遅れているのが原因ですから、一刻も早く上洛されるように、あなた(兼統)がすすめてください。

一、上方では会津で武器を集めていることや、道や橋を造っていることが問題とされています。家康公が景勝卿の上洛を待っているのは高麗(李氏朝鮮)へ降伏するように使者を使わしているからです。降伏しなければ来年か再来年か軍勢を出すこととなります。その相談もありますし、早く上洛して直接釈明されるべきです。

一、愚僧(承兌)と貴殿(兼統)は数年来親しくつきあってきましたから現状が心配です。会津の存亡、上杉家の興廢が決まる時ですから、熟慮が大切です。これは全て使者の口上にも含まれています。頓首。

豊光寺 承兌
卯月朔日 直江山城守殿 御宿所)

対する ChatGPT の回答は次である。

〈尊い笑承兌殿、

拝啓、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。御便りを賜り、深く感謝申し上げます。

まず初めに、景勝卿の上洛が遅れていることにつきまして、大変申し訳なく存じます。内府様の御不審を招くような情勢であることを重く受け止めており、速やかに解決するべく心掛けております。

内府様からのお心遣いに対し、以下のようにお伝えいたします。

一、景勝卿に謀叛の心は一切ございません。神社の起請文での申し開きは、家康公のご内意と存じます。ただし、謀叛の噂が立つことにより、一層の慎重な対応が求められております。

一、景勝卿は律儀な者であり、豊臣秀吉以来のご存じの通りです。釈明が認められれば問題は解決できると確信しております。

一、堀監物の報告につきましては、謝罪が必要であることを理解しております。迅速かつ誠実な対応を心がけ、内府様への信頼を損なわぬように致します。

一、北国の肥前殿の例を踏まえ、道理が通る釈明が必要です。これを教訓として、慎重にかつ明確にお話し申し上げます。

一、増右・大刑少の話は注意深く伺い、榊式太にも伝達いたします。内外の誤解を解くため、一丸となって対応してまいります。

一、景勝卿の上洛が遅れていることは重大な問題であることを理解しており、兼統殿も心よりお詫び申し上げます。速やかな上洛を促進し、直接釈明することが喫緊の課題であることを自覚しております。

一、武器集めや道橋の造成についての問題も重く受け止めており、早急に解決すべく努力いたします。高麗への使者についても検討し、誤解を解くための手段を講じてまいります。

一、笑承允殿との親交に感謝し、存亡、興廃が決まる重要な時であることを心に刻んでおります。使者の口上にも十分な検討を加え、慎重に対応して参ります。

最後に、使者としてのご命令に従い、最善の結果をもたらすべく努力致します。何かございましたら、どうぞお気軽にお知らせください。

それでは、頓首。

豊光寺 承允

卯月朔日 直江山城守殿 御宿所)

この回答ではまず、「(私・直江兼統から) 西笑承允さまに返信を出したい」という点が把握されておらず、末尾の署名が本来は直江兼統であるべきところが、「承允」となっている。先の ChatGPT の回答では(私)直江兼統、(主君)上杉景勝、(宛先)徳川家康の関係が正しく把握されていたのとは対照的である。

内容としては、西笑承允書状にきちんと答える形式で、西笑承允や徳川家康への感謝や謝意も述べられ

ている。一方で、起請文での申し開きや、上洛、謝罪や釈明といった西笑承允書状での要求に対する具体的な回答は実質的にされていない。その要因として、プロンプトで今後の行動についての指示がなかったことも一因と考えられる。

4.4. プロンプトに元の書状と上洛拒否の意向を示した場合

プロンプトとして西笑承允書状の内容を示した上で上洛を拒否するよう指示し、直江状を作成した。

〈現在は慶長5年(1600年)、私は直江兼統というものです。このたび西笑承允さまから、下記の手紙をいただきました。私から西笑承允さまに上洛を拒否する返信を出したいので、作成してください。〉

西笑承允さまからの手紙は次の内容です。

景勝卿の上洛が遅れていることについて内府様(徳川家康)は御不審をもっています。上方では穏便でない噂が流れていますので、伊奈図書(昭綱)と河村長門を下らせました。神指原に新城を作ったり、越後河口に橋を造ったりするのは特によくありません。景勝卿がそう思っているとしても兼統殿が意見しないのは油断であり、内府様の御不審ももっともです。

一、景勝卿に謀叛の心がなければ神社の起請文で申し開きすることが家康公のご内意です。

一、景勝卿が律儀であることは太閤様(豊臣秀吉)以来家康公もご存じです。釈明が認められれば問題は無いと思います。

一、近国の堀監物(秀治)が再三謀叛の報告をされているので、しっかりした謝罪がなければ釈明は認められないと思います。ご注意ください。

一、この春、北国の肥前(肥前守=前田利長)殿も謀叛を疑われましたが、家康公の道理が通った思召し召しで、疑いが晴れました。これを教訓としてご覚悟ください。

一、京都では増右(増田右衛門少尉=長盛)・大刑少(大谷刑部少輔=吉継)が家康公への話をされているので、釈明は兩人へ伝えてください。榊式太(榊原式部大輔=康政)にも伝えられると良いと思います。

一、なんとんでも景勝卿の上洛が遅れているのが原因ですから、一刻も早く上洛されるように、あなた(兼統)がすすめてください。

一、上方では会津で武器を集めていることや、道や橋を造っていることが問題とされています。家康公が景

勝卿の上洛を待っているのは高麗（李氏朝鮮）へ降伏するように使者を使わしているからです。降伏しなければ来年か再来年か軍勢を出すことになります。その相談もありますし、早く上洛して直接釈明されるべきです。

一、愚僧（承兌）と貴殿（兼統）は数年来親しくつきあってきましたから現状が心配です。会津の存亡、上杉家の興廢が決まる時ですから、熟慮が大切です。これは全て使者の口上にも含まれています。頓首。

豊光寺 承兌

卯月朔日 直江山城守殿 御宿所)

対する回答は次であった。

〈西笑承兌様、

厚くお礼申し上げます。貴殿のお心遣いに深く感謝いたします。しかしながら、景勝卿の上洛が遅れていることに対する内府様の御不審について、私兼統は以下の理由から上洛を拒否せざるを得ません。

まず第一に、景勝卿の意向に反する形で神指原に新城を築いたり、越後河口に橋を造ったりすることは、私たちの立場からは難しいものであります。これらの行為に対する釈明が不十分であることは認識しており、その責任を全うするべく努力しております。

また、景勝卿に謀叛の心があるという誤解は重大であり、これを解消するために神社の起請文での申し開きが要求されることは理解しております。しかしながら、それは景勝卿の信義を疑われることに繋がりかねません。従って、その前に堀監物からの謀叛の報告に対してしっかりと謝罪し、釈明を行うことが先決であると考えております。

北国の肥前殿が疑われた事例についての教訓も十分に理解しており、同様の誤解を解くためにも、私たちの真意を伝える手段を検討しております。増右・大刑少への釈明はもちろん、榊式太にも真実を伝えることを検討しております。

最も重要なのは、景勝卿の上洛が遅れていることに起因する問題です。私は直ちに上洛を進言し、従者と共に努力いたします。ただし、慎重かつ検討を重ねた上での行動が必要であり、これは会津の存亡、上杉家の興廢に直結するものであると理解しております。

最後に、使者の口上に含まれているとのこと、この重要な情報についても詳しくお聞きしたいと思います。ご理解賜りますようお願い申し上げます。

何かご不明点やご要望がございましたら、お気軽にお知らせください。心よりお願い申し上げます。

豊光寺 承兌

卯月朔日 直江山城守殿 御宿所)

この回答では、「景勝卿の意向に反する形で神指原に新城を築いたり、越後河口に橋を造ったりすることは、私たちの立場からは難しいものであります」は意味不明だし、「最も重要なのは、景勝卿の上洛が遅れていることに起因する問題です。私は直ちに上洛を進言し、従者と共に努力いたします」は、責任を主君の上杉景勝に預ける形になっており、上杉家における外交や軍事の全面的な責任を負って活動していたとされる直江兼統の手紙にはふさわしくない。そこで、上洛拒否は直江兼統をふくむ家中一致した意向であることを追加のプロンプトで指示した。

〈上洛拒否は主君の上杉景勝および私直江兼統をふくむ家中一致した意向なので、その点を踏まえて返信を作成してください。〉

対する回答は次の通りであった。

〈西笑承兌様、

厚くお礼申し上げます。貴殿からの手紙を受け、心より感謝いたしております。また、内府様よりの御不審についての心遣いに対し、お手紙に記載された懸念に真摯に向き合い、ご理解をいただきたく存じます。

まず、私、直江兼統は主君の上杉景勝公の命により、上洛の意向を拒否せざるを得ない立場にあります。家中一致の意向として、景勝公が上洛を遅らせる理由について、心悩ましくも重要な事項がございます。

景勝公の意向は、神指原に新城を築いたり、越後河口に橋を造ったりすることは決して意味深いものではございません。これらの行動には誤解が生まれやすいものであり、私たちの信義を疑われる結果となりかねません。そのため、まずはこれらの行動に対する適切な説明と謝罪が必要と考えております。

一方で、堀監物からの謀叛の報告についても、これを受けてのしっかりとした謝罪と釈明が行われるべきだと認識しております。景勝公の律儀さを示すためにも、適切な手続きを踏んで真実を明らかにしてまいります。

http://repo.beppu-u.ac.jp/modules/xoonips/download.php/sg04106.pdf?file_id=5354

家中一致の立場から、上洛の遅れに起因する問題については、これを解消するためにも努力を惜しまない覚悟でございます。しかしながら、慎重な検討が必要であり、その点をご理解賜りますようお願いいたします。

使者の口上に含まれる情報についても、これを参考に進展があれば追って報告させていただきます。何かご不明点やご要望がございましたら、お気軽にお知らせください。

最後に、貴殿との親交に深く感謝いたします。今後とも共に困難を乗り越えていくため、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

豊光寺 承兌

卯月朔日 直江山城守殿 御宿所)

この回答であれば、書簡の叩き台には使えるのではないかと私は評価する。

5. 詫び状作成の意義を再考する

いままで述べてきた「直江状」作成をふまえると、ChatGPTによる詫び状の作成は、詫び状作成の意義をあらためて考えるきっかけになるのではないかと。

ChatGPTなどの生成AIによる詫び状の作成は、感情の制御や表現、あるいは相手への気遣いといった負担を大きく減らせる可能性がある。一方で、問題への対応方針や具体的な対応方法がない場合には、表面上はいいねいであっても、内容のない詫び状しか作成できなくなる。生成AIで負担を減らせる分、問題への対応方針や具体的な対応方法を考えることに集中するというのが望ましい方向になろう。そのことで、問題をすみやかに改善できるとともに、よいコミュニケーションを築けるようになるだろう。

詫び状作成は、個人や小さな組織内の些細な事象が対象のこともあるが、戦争と平和などの重要事項に関わることもある。生成AIやその活用方法の技術進歩を通じて詫び状の作成も進化することを望む。

文献

- [1] 白峰旬「直江状についての書誌的考察」、『史学論叢』41 39-66, 2011-03, 別府大学史学研究会